＝導入事例＝
印刷工程管理システム

株式会社須田製版様

工程全体を見渡した情報管理の実現により課題把握と対応の迅速化を実現

以前は工程ごとに単独で管理を行っていた情報が統合されて部門ごとの状況把握ができるようになり、
特に前工程の進行状況がわかることで次の段取りがスムーズに行えるようになりました。
物件ごとの製造原価が概ね把握可能になると共に、製造工程の課題を見つけて適切な対応を行えるようになりました。

課　題		「印刷工程管理システム」ができること
工程間で進捗状況を共有したい。		分散された部門システムを統合
製造原価・収益を逐次把握したい。	⇔	情報の一元管理（機器を問わないリアルタイム更新）
隠れた課題の把握と解決を行いたい。		部門間・工程間に跨る課題の把握と解決

システム導入前の課題

部門システム統合による情報一元管理が必要

(1)ＳＰマルチ、生産管理サブシステム、折込管理サブシステムの機能統合が必用。
(2)生産コスト含め、収益がリアルタイムで把握できないことにより、一元管理可能なシステム構築が必要。
（見積・受注・原価計算(標準時間)の管理）
(3)各部門（営業部門、生産部門、支社、支店、営業所、等）にてシステム運用が独自管理されており、部門間での情報共有が必要。

解決策

「印刷工程管理システム」による業務と情報の統合と運用環境の安定化

(1)現在利用されているシステム機能を継承しつつ分散化されたサブシステムを統合させる。
(2)製品単価・社内原価を管理し共通化された原価管理を行い、生産管理により作成された製品群単価を管理する。
(3)一部Webシステムを構築する事により共通システムの運用を可能とする。

効果

時間と部材の活用効率を向上し収益アップ

(1)適正な部材検討が可能となり、収益改善につながった。
・データベース統合、原価マスタ整備、管理項目の整備により経営分析データの作成が可能
(2)WindowsOS　MacOS等を利用可能とし、各部所で機器を問わない情報検索を可能とした。
・作業予定・進捗状況を共通で閲覧できる一覧照会が可能
・変更内容がリアルタイムで反映可能
(3)管理運用の軽減、二重入力の防止を実現した。
・共通のマスタ、サブシステム間とのデータベース統一化

今後の課題

システム運用前には、考えていなかった情報管理が見えてきたことで、運用後に派生的に作った生産の指標を図る集計プログラムの基幹システム移行を検討したい。
情報取り出しの自由度をさらに高めて情報活用の高度化を図りたい。